

# スポット ライト

NPO法人未来で地域マネジャーを務める

光森 明さん

たテレビコマーシャルの制作会社でウルトラマンの生みの親、実相寺昭雄さんと出会い、映像の世界にのめり込んでいきました。もともとは映画がやりたかったんですが、例えば視聴率のようにすぐ作品の反応が出るテレビのおもしろさにも引かれていきました」

素手でやりたい

人気番組の制作プロ

## テレビマンから転身

## 倉吉の空き店舗再生

デューサーを辞めて地域マネジャーをやるつもりだったのは。

「なんでも鑑定団」は通算7年間、担当しました。出張鑑定で全国に行きましたが、大抵がま

ちおこしのためにと番組誘致をすることが多い。放送では出しませんが、その際、各地で空き店舗が目立つ商店街や休耕田、廃屋がある集落などが目に入り、心が痛みま

た。映像の世界だけではそれを食い止めたがり、再生したりすることができない。それなら素手でやるしかない。やるなら60歳を前にした今だ、と会社を辞めました」

「なぜ倉吉市を選ばれたのですか。」  
「母親が人形峠を越えたお隣・岡山県の上斎原村（現在の鏡野町）の出身で、子どものころは倉吉によく遊びに来ていました。たまたまネットで検索していて、倉吉のまちの再生に取り組む人材を募集していると知り、

「空き店舗の場所が更地になると、まちの記憶の一部が失われます。それだけは避けたい。復活、再生のベースはまちの人にとって『良くなった』『便利になった』と思えることです。観光客用にはまちを仕立てても、一過性で終わってしまいません。地元の人、近隣の人にとって魅力あるまち、元気なまちなら、観光客も自然と集まります。それも、地元の人の手でやってみようという活性化につながると思います。自分がどれだけのことを皆さんに提示できるか。私にとっても新たな挑戦です」

テレビ東京系の人気番組「開運! なんでも鑑定団」の制作プロデューサーから一転、倉吉市の中心市街地で空き店舗の再生に取り組む。事業名は家守事業。家守は江戸時代に実際にあった職業で、不在地主からの委託を受けて長屋内を差配した、いわばタウンマネジメントを担う人。新たな視点で、空洞化が進む中心市街地の活性化に取り組む。



＜プロフィール＞みつもり・あきら 岡山県岡山市出身。明治大文学部演劇専攻を卒業後、1972年にテレビコマーシャルの制作会社に入社。その後、フリーの制作プロデューサーとなり、テレビのドキュメンタリーやドラマ、バラエティー、映画、コマーシャルなどを手掛け、96年に制作会社ネクサスに入社。これまで、TV東京系「なんでも鑑定団」や朝日放送系「驚きももの木20世紀」などの制作プロデューサーを務める。今年4月末で退社し、6人いる県の地域プロデューサーの1人として9月から、倉吉市のNPO法人未来へ。湯梨浜町門田。

懐かしいにぎやかだったまちの復活の役に立てればと応募しました」

「空き店舗の再生、復活は大変な仕事だと思えますが、どのように進めていけますか。」  
「倉吉市の中心市街地の商店は昔の町家風で、前に店舗、後ろに住居が続いており、そこには生活があります。空き店舗の賃貸を願っても簡単

（聞き手は中部本社編集部長、西村秀顕）